

一貫作業システム現地検討会の開催について（概要）

津軽森林管理署

平成29年11月7日（火）、昨年に引き続き一貫作業システム現地検討会を、相馬森林事務所管内の湯口山国有林 351林班ろ2小班で開催しました。

現地は、小面積の皆伐箇所ということ及び事業終了箇所ということもあり、当署管内での生産請負事業の実行事業体（9社 17名）と当署職員（8名）及び青森事務所（3名）の28名の出席で、意見交換をメインに実施しました。

署長あいさつ、事業箇所の概要説明（総括森林整備官）に続き、事業実行事業体から作業状況の説明後、参加者による事業箇所の視察を行いました。

事業実行事業体からは、小面積で搬出路が1本しか作設出来なかったため、集材の際に上部の伐倒木をワイヤーで引っ張る作業があったこと、植付・下刈作業を考え、一部地拵えを行ったことが話されました。

現地での作業は終了していたため、作業中の状況、伐採・搬出後の林地の状況、植栽後の状況が分かる写真を参考資料として添付しました。

現地視察後の意見交換では、事業実行者から、伐採前に下草や灌木類を刈り払った。デュブルの柄の部分もう少し軽くなると良い。コンテナ苗とデュブルを使用した植付は、緑の雇用1年目の経験の浅い者にも容易に出来るので良い。作業道の所には植栽できないので、植付本数 ヘクタール2千本はちょうど良い。一貫作業だと、運材用のフォワードを苗木の運搬に活用できるので良い。との話しがされました。

また、昨年一貫作業を行った業者からは、この箇所は小面積で作業道が1本しか作設出来ないが、大面積の箇所では、地形に合った作業道が作設出来るので効率的に作業が出来る。コンテナ苗の管理は容易で植付けもしやすくて良いが、根鉢に気を遣った。地拵え経費は無いものの、植付けや下刈りの事を考えると、事業者の努力として林地の整理を行っている、ある程度の地拵え経費は必要。との話しがされました。

参加者からは、このほか、全幹（枝付）で引き出せば、林内に枝条が残らないので地拵えは楽になる。個人の山にはまだ普及していないが、コンテナ苗になってから、林業が変わってきたと感じる と森林組合の組合員には話している。

この箇所は急傾斜だが、帯状で均等な間隔で苗木が植栽されているので下刈りは楽だと思う。低密度の植栽箇所で下草が繁茂している場合は、次の苗木に当たりを付けるのに苦労する。ササの繁茂が著しい箇所、灌木類の多い箇所などは、ある程度地拵え経費を考慮して欲しい。との意見が出されました。

署側から、一貫作業システムは、まだ試行錯誤の部分もあるが、改善しながら普及して行きたいので引き続きよろしくお願ひしたい、また、意見要望については、上局にも伝えていきたい、として参加者の理解を求めて意見交換を終了しました。

この後、採材検討会として、津軽署 主任森林整備官から、津軽署管内での生産量実績（材区分や長級別一般材・合板材の比率）について、青森事務所 上席技術指導官から、有利販売につなげるための採材指示書の内容や曲がりによる採材の検討方法、広葉樹の採材次第で高値で販売出来るので配慮を願う、などについて資料を基に説明を行いました。

この日は晴天に恵まれ、半日ではありましたが貴重な時間となりました。

現地検討会の様子



署長 開会のあいさつ



参加者による現地視察



意見交換 ①



意見交換 ②



採材検討会（青事から）



署長 意見集約